

山岸荷葉 やまがし 小説家、劇作家。明治九年一月、二十九日東京生れ、

昭和二十年二月十日歿（六五—九五）。本名惣次郎。筆名おえふ、加

賀のや、加賀谷、阿羊子、宗、山岸阿羊、山岸宗、山、荷葉、竹葉鶯

三、荷葉生、雲石、鶯群堂主人等。少時巖谷一六の書を學ぶ。川田甕

江の私塾を経て東京專門學校に入り坪内逍遙の師事。のち尾崎紅葉門

の轉じて硯友社同人となる。明治二十五年武田櫻桃（鶯塘）等と雑誌

『詞海』を創刊。二十二年『讀賣新聞』に入社して劇評を擔當。

著譯書『はるよしのめ』（加賀のや名・紅葉補、露伴、波六合著、明治二十二年

五月十四日青木嵩山堂）、『紺暖簾』（明治二十五年十月十六日春陽

堂）、『五人娘』（明治二十六年一月十一日文祿堂書屋）、『世尾上

菊五郎』（編、明治二十六年二月一日文學堂）、細川卷紅葉影』（明

治二十六年五月十一日東京寫友會本部。附録・荷葉「寫影」）、『沙翁

ハムレット』（土肥春曙共編纂、明治二十八年十月五日富士山房）、『矢

戀境』（荷葉名、明治二十六年十一月十七日春陽堂）、マアテルリン

ク作『柳本モシナワシナ』（譯、明治二十九年二月九日春陽堂）、『町

女房』（荷葉一山岸宗名、明治二十九年七月十八日春陽堂）、『沙翁

はむれ』と』（編纂、明治四十年十月十五日春陽堂）等。